

用語解説 乗合タクシー：「予約型乗合交通ふれあい号」として21年10月からサービス開始。平日の午前8時から午後4時まで市内を運行。1時間毎に予約が必要。事前登録をした上で、1人1回250円のチケットで利用が可能。

石川 栄子 議員



乗合タクシーの土・日の運行は可能か

答 今のところ困難である

議員

公共交通の充実がないと、高齢になっても免許証が手放せないし、交通事故が心配だ。市内循環バスがあれば便利で、皆が利用すれば排気ガスの排出も少なく環境にも良い。乗合タクシーとバスの両方の運行が理想的だが、今日のところは乗合タクシーの充実を求める。土日は各種イベントがあり、各店舗の大安売りの日でもある。しかし、若い人は若い人同士で、あるいは親子連れで出かけ、年寄りまでは乗せてもらえない。是非、土、日曜日の運行を求める。

総務部長

利用者450名へのアンケート調査では、土日運行の要望は15%で最も多いが、事業者の収益確保のために行わない約束となっているため困難である。

議員

市民の要望が多いのであれば、土日のどちらかだけでも運行を検討していただきたい。県内に

は、市外の病院や施設等への運行を予定する那珂市や年度末開始予定の坂東市、既に運行している古河市がある。当市では市外への運行を考えているか。

総務部長

利用者アンケートでは、市外への運行希望は、2・3%で少数であり、かつ、車両が1台減少しており、市外への運行拡大は厳しい状況にある。

議員

市内しか運行しないと頭にあつたため、アンケートで少数となったのではないか。「1週間に1回くらい、筑波大学病院とメディカルセンターを廻って行けると良い。乗車券は片道3〜4枚ぐらい」という提案をする。

行政経営課長

台数に制限があるため、市内の交通空白地帯の解消を最優先に考えている。

議員

市民の利便性、だんだん高齢化し病院へかかる人が増えていく現状を踏まえて、ぜひ検討課題にお願いしたい。

坂野 茂実 議員



若者が希望をもって生活の場として居を構えることができる場所はあるか

答 住環境を整備し活性化したい

議員

人口減少対策の取組について、まずは、水害前と最新の常住人口の増減を伺う。

市民生活部長

水害直前の27年8月末の常住人口は、6万2686人、30年10月末の常住人口は6万316人で2370人の減である。

議員

このままでは、1〜2年で6万人割れも必至だ。人口減少対策の取組について伺う。

保健福祉部長

結婚を希望する男女の出会いの提供や支援・相談の活動をするふれあいサポーター事業を行っているおり、29年度については結婚登録申込者の成婚が2組あった。他に、不妊治療の助成、出産後の支援として出産祝金、赤ちゃん訪問、多子世帯の保育料の軽減、児童クラブ等の開設など、結婚から子育てまで切れ目のない支援を全庁的に行ってきたい。

経済環境部長

工業団地就労者の定住促進には現在対応していないが、他市では市外の方々の市内への定住促進の策として、企業が従業員への家賃補助をするために、企業への補助金交付の事例もあり、今後調査研究を進める。

都市建設部参事

鬼怒川最下流の守谷市から最上流の筑西市までの7市町がサイクリングロードで連携する。当市区間が夏を目的地に開通するので、訪れた方を呼び込みたい。

議員

何より先決は若者が希望をもって居を構えることだ。そのための場所はあるのか。

都市計画課長

住環境の整備は活性化につながるかと考える。*じょうそう未来創生プランには、水海道南地区を総合的な市街地の形成に向けて検討するとしている。民間活力を利用した住宅地開発の調査研究と同時に、民間事業者による商業施設立地の可能性についても調査研究を進めていく。

用語解説 じょうそう未来創生プラン：市のあるべき姿と進むべき方向性の基本的な指針として、市民の方々にまちづくりの長期的な展望を示すもので、市のまちづくりや地域経営の最上位に位置づけられる計画